

働き盛りの男性を地域デビューさせるには？

福岡市 50代 男性

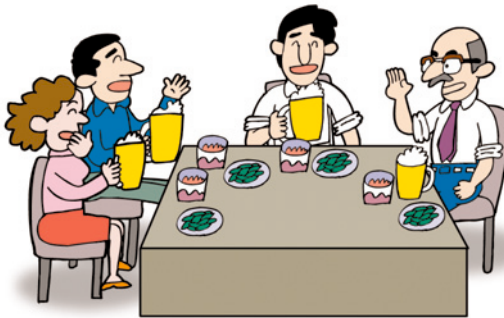
地域の活動に参加する40代、50代前半の男性というのは極めて少ないのです。その人たちをどう確保するかというと、やっぱり飲み会。今までの経験からいっても、やっぱりお酒の席が一番入りやすいんですよ。

新しい人を誘う時には、とにかく名前だけでも書いてもらって、「来られるときに来てください」、「来られないときにはすみませんが電話をください」と声をかけます。2回続けて返事もなければもう誘いません。

男性を地域の活動に誘い込むのはものすごく難しいです。一度出ても、二度目は来ないという人も結構いるわけです。40代、50代前半の男性が継続して参加するような雰囲気になると、すごくよくなるんじゃないかなと思います。

男性は平等に見ようとするけれども、女性だけにすると偏ってしまう。かといって、あまり男性が強すぎると軍隊みたいになってしまう。やっぱり女性、男性お互いに物が言える環境をつくっていくことが大事ですね。

今度の地震でも、日ごろのおつき合いがあったから、地域の復旧活動がうまくいったのではないかと思います。



津波の第2波が来る前に逃げた

徳島県海部郡 70代 女性

津波で流されている間は、家族のことは頭に全然なかった。ちょっと薄情なぐらいに。自分が生きよう生きようという気持ちでいっぱいでしたね。

潮も引いて、足も立つようになって、「あ、そうだ、お父さんやお母さんたちはどこまで流されたんだろう」と思いました。「早う探しに行かないかなあ」と思っていた時に、私が敷居につかまっていたその家の中から話し声が聞こえてきたんです。

「だれかいるん、だれかおるーん？」と2回ほど聞いたら、「おるぞー」という声がしました。お父さんでした。お母さんも姉も中にいて、親子4人が、「命拾いしたなあ」と、肩を寄せて、もう泣くばかりに、喜びました。

だけど、津波って、2回、3回と来ると聞いていたので、「早う逃げないかん」言うて、母は足にケガをして血を流していましたが、姉と私が両方から支えて、みんなで裏山の方に逃げました。

途中、2人ほど、女の人が亡くなっていました。ハッとしました。でも、私はどうすることもできんしね。後ろ髪を引かれる思いで山のすそまで来ると、第2波の津波が押し寄せてきました。



スリッパではあぶない家の中

部屋の中は、どこもワレモノだらけに

輪島市 60代 女性

私の家は「一部損壊」でしたが、うちの中はそこら中の物が倒れて、足の踏み場もないほどでした。

台所の食器棚は扉が開き、中の茶わんやコップがほとんど下に落ちて、床の上に踏み場もないほど散乱していました。

よく「防災グッズとしてスリッパを用意したほうがいい」なんて言いますが、ああいう時は、実際、スリッパなんて、とてもじゃないけど使いものになりませんね。カンタンにはぬげない、底の厚いしっかりした靴をはかないと足を切ってしまうそうだったから、家族みんなで家の中でも長靴やズックをはいていました。



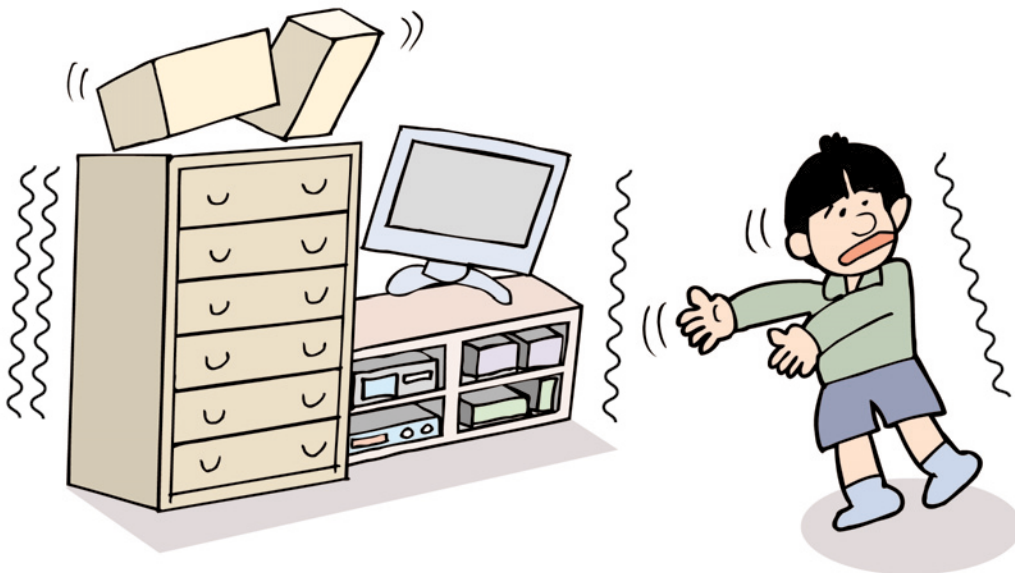
知っていれば良かった、地震のこと

（神戸市 20代 男性 学生）

うちは、大きな被害はなかったのですが、明るくなってからも、ドキドキしていましたが、長田のほうから黒い煙が上がっているのを、私の家から見えたことが特に記憶に残っています。だから、今でも、ちょっとした地震に敏感に反応してしまうし、花火の音にもドキっとしたりもします。

当時は小学校1年生で、地震という言葉すらも聞いたことがなかったので、物理的に被害は受けていないけれど、やはり影響は大きかったなと思っています。

地震が起きると家が揺れたりするとかということぐらい、最低限知っていれば、「ああ、地震だ」と思えたら、もしかしたらあの時、そこまでびっくりすることもなかったかもしれない。僕自身が心のケアとかを勉強してきたからかもしれませんが、地震を知っていれば、もしかしたらその後の心理的な負担とかは軽減されたのではないかなと思ったりします。



おとなりさんがいない！

腰まで浸かっておとしよりの救出

（宮崎市 60代 男性）

夜になって、民生委員さんがおとなりに住んでいる人が来ていないことに気がつき、「こりゃ、大変だ」ということになりました。あの頃は自治会でも、安否をチェックする役目の人なんて決めていなかったものですから。

で、市役所の方がおられたから、こういう人がまだ来ていないので、今から迎えに行きたいんですと言うたら、「もう今日は遅いから明日にしてください」と言われました。

でも、いてもたってもいられず、1人じゃ危ないからと、仲間と2人で様子を見に行きました。堤防ぞいに歩いて、その家にたどり着き、戸をたたくと、むこうから声がしたんです。「おい、中にいるぞ！」ということですね。

こちら腰まで水につかっている状況だから、水圧でドアが開かないんですよ。ようやくドアをたたき壊すと、家の中の物がこっちにブワーッと流れ出てきました。

85歳と83歳の老夫婦でしたから、二人とも部屋の中で、立ったまま、声も出さずに震えておられました。助けることができ、ほんとうに良かったなと思いました。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

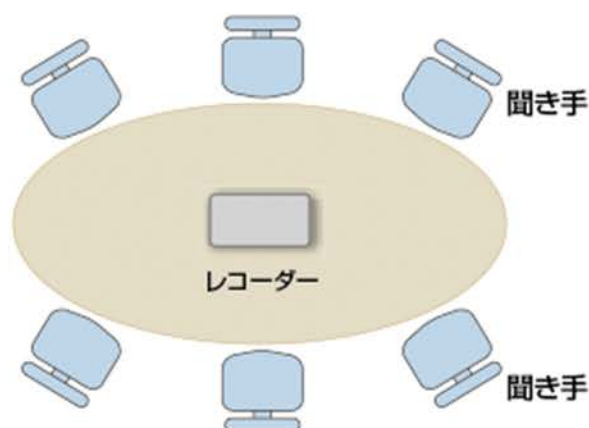
—簡単な手順を紹介します—

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ

その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする
※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省